

ともに支え合う、心豊かなまちづくり

白石町 地域福祉活動計画

再生しよう！地域の対話とつながりを
発揮しよう！地域の支え合いを



平成 25 年 3 月

ふれあいネットワーク



社会福祉法人
白石町社会福祉協議会

はじめに（趣旨）

我が白石町も人口減少と少子高齢化が進み、生活のスタイルやものごとの考え方が多様化しています。核家族化や高齢者のみの世帯の増加に伴い、家族機能が低下するとともに、地域の伝統行事や団体の組織力、いわゆる地域共同体の機能が衰退し、地域のつながりや人間関係も希薄になってきている実態があります。

一方、戦後 制度・サービスの充実に伴い、公助に頼り過ぎた反動で、自助努力が求められています。世の中がより複雑で困難になってきているだけに、公助では行き届かず、自助ではまかなえない現実があります。だからこそ、地域共同体の共助の力を今一度見直そうという考えが必要になってくると思われまます。

「再生しよう！地域の対話とつながりを発揮しよう！地域の支え合い」をスローガンに、地域ごとの課題やニーズに対し、地域住民がつながりや支え合いを発揮し、行政及び関係機関・団体との協働によって解決力を高め、住民一人一人の豊かな暮らしを実現していく取り組み、その実践活動を目指すのが、今回策定した「白石町地域福祉活動計画」です。

これから5年間の実践には、行政や関係機関・団体だけでなく、町民皆様の参加と協力がこれまで以上に必要です。豊かな地域づくりとそれを次代につなぐ日々の実践に町民一人一人の知恵と力を存分に発揮していただきますよう、切にお願い申し上げます。

平成25年3月

社会福祉法人 白石町社会福祉協議会
会 長 川 崎 初

目次

第1章 計画の概要	1
1. 白石町地域福祉計画(町の計画)	1
2. 白石町地域福祉計画(町の計画)と白石町地域福祉活動計画(活動計画)との関係	1
3. 計画の期間	2
4. 計画の策定体制	2
第2章 白石町の現況と地域課題	3
1. 人口(年齢別)の推移	3
2. 世帯状況の推移	5
3. 地区別の人口、世帯数、高齢化率	7
4. 地域の問題・課題、良いところ	11
第3章 計画の基本方針	19
1. 基本理念	19
2. 基本目標	19
3. 活動計画	20
白石町地域福祉活動計画策定の経過	25
白石町地域福祉活動計画策定委員会委員名簿	27

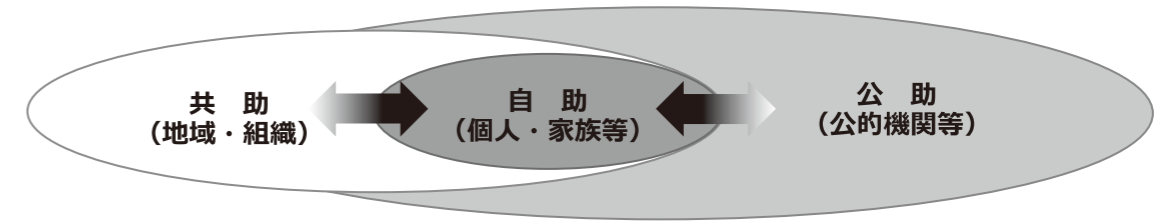
第1章 計画の概要

1. 白石町地域福祉計画(町の計画)

社会福祉法(平成12年改正)は、同法第107条において市町村に地域福祉計画の策定を義務づけています。白石町は、平成23年3月に、「地域で支え合う 個性豊かな健やかで安心のまちづくり」を基本理念とした「白石町地域福祉計画」を策定しました。

その「白石町地域福祉計画(以下「町の計画」という)」の主旨は、次のとおりです。「地域福祉とは、児童福祉・高齢者福祉・障害者福祉等の対象者ごとの福祉サービスだけでなく、自分たちが住んでいる地域社会の生活課題を発見し、解決していこうとするものです。具体的には、支援を必要としている人やその家族が、地域社会の中で自立した生活を送ること(自助)ができるように、公的サービス(公助)のみならず、地域住民のふれあい交流活動や見守り活動、助け合い活動、健康づくりといった支援・支え合いを、地域でお互いに行っていくこと(共助)であり、その「地域での支え合い」をどのように進めていくか定めたものが地域福祉計画です。」

地域福祉の概念図



自助とは・・・住民一人ひとりが個人の努力で自分の生活を営む個人の活動をいいます。

共助とは・・・個人や地域組織による支え合い、助け合いの活動をいいます。

公助とは・・・行政や公的機関が直接的に支援することをいいます。

2. 白石町地域福祉計画(町の計画)と白石町地域福祉活動計画(活動計画)との関係

市町村社会福祉協議会は、社会福祉法第109条において「地域福祉の推進を図る団体」として位置付けられています。

白石町社会福祉協議会は、町の計画の基本理念及び基本目標・施策方針を踏まえつつ、平成25年度から平成29年度までの5ヶ年を期間とする「白石町地域福祉活動計画」(活動計画)を策定しました。

この活動計画は、白石町における地域の福祉課題の明確化と解決策の協議を行い、その解決に向け、地域住民をはじめ、行政及び関係機関・団体等、公私協働による具体的な活動を実践していくために策定するものです。

3. 計画の期間

地域福祉活動計画の計画期間は平成25年度から平成29年度までの5ヶ年とし、地域の実情や進捗状況など必要に応じて見直し、単年度の事業計画で修正していきます。

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
計画策定	→					
計画期間						→
計画見直し		必要に応じて見直し、単年度の事業計画で修正します。				

4. 計画の策定体制

地域福祉活動計画を策定するために、「住民自治」「地域福祉活動」「ボランティア活動」「障害者福祉」「老人福祉」「町議会」「教育関係」「NPO関係」「商工業関係」「関係行政機関」「指導的機関」などから構成される「白石町地域福祉活動計画策定委員会」を設置し、協議を重ねてまいりました。

第2章 白石町の現況と地域課題

1. 人口(年齢別)の推移

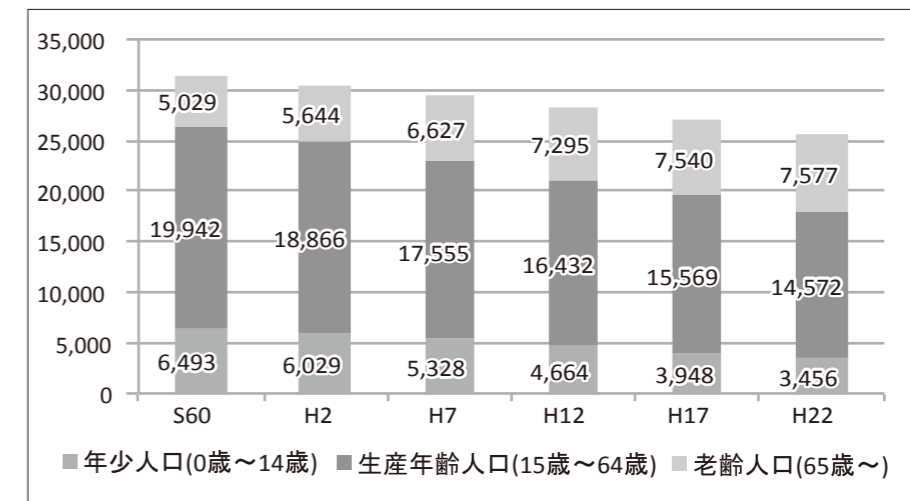
本町(平成17年合併前は旧3町のデータを合算。以下同じ)の人口は、昭和60年(1985年)から平成22年(2010年)までの25年間で5,859人減少しました(年に234人減)。年齢3区分別では、年少人口が3,037人(年に121人減)、生産年齢人口が5,370人(年に214人減)減少しています。その大きな理由は、出生数の減少と若者の進学や就職等による転出数の増加だと言えます。

一方、高齢人口は年々増加して、平成4年あたりに年少人口と逆転。25年間で2,548人増加しました。しかし、その増加傾向は鈍化して平成12年を過ぎたあたりからほぼ横ばい増加で推移しています。

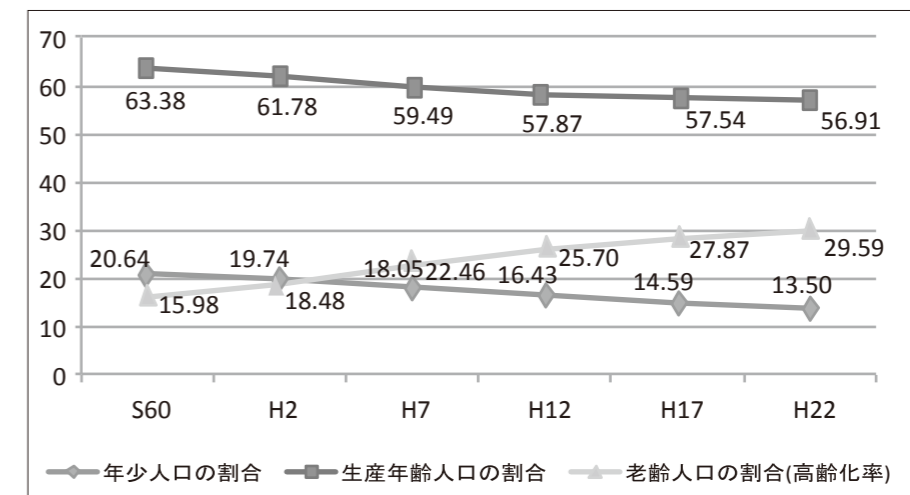
人口及び年齢3区分別人口の推移(人)

年	昭和60 (1985)	平成2 (1990)	平成7 (1995)	平成12 (2000)	平成17 (2005)	平成22 (2010)
人口	31,464	30,539	29,510	28,391	27,057	25,605
年少人口(0歳~14歳)	6,493	6,029	5,328	4,664	3,948	3,456
生産年齢人口(15歳~64歳)	19,942	18,866	17,555	16,432	15,569	14,572
高齢人口(65歳~)	5,029	5,644	6,627	7,295	7,540	7,577

国勢調査



年齢3区分別人口割合の推移(%)



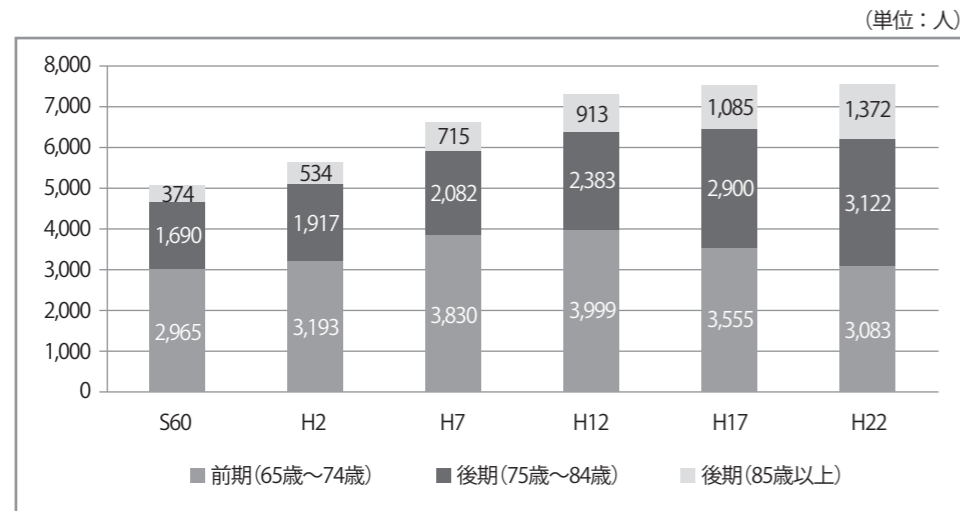
高齢人口の増加が鈍化したのは、前期高齢者(65歳～74歳)が平成12年あたりをピークに年々100人程度で減少傾向に転じたからです。平成22年の前期高齢者数が再び25年前の数字に近づいているとおり、これから先は更に減少傾向になります。原因は、前期高齢者に仲間入りする年齢層(生産年齢人口)が減少していることです。

それでも高齢人口のやや横ばい増加を支えているのは、圧倒的に増加する後期高齢者です。前期高齢者がほぼ確実に後期高齢者になり、長寿化がさらに進んでいるためです。しかし、前述のとおり前期高齢者以降の次世代が減少していることが影響し、高齢者全体の人口もやがては徐々に減少することでしょう。

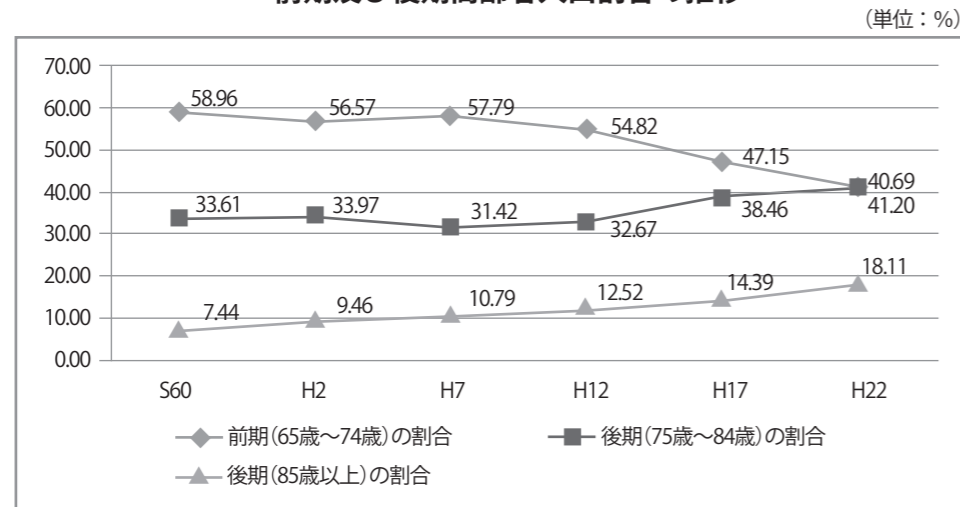
前期及び後期高齢者人口の推移 (人)

年	S60	H2	H7	H12	H17	H22
高齢人口(65歳～)	5,029	5,644	6,627	7,295	7,540	7,577
前期(65歳～74歳)	2,965	3,193	3,830	3,999	3,555	3,083
後期(75歳～84歳)	1,690	1,917	2,082	2,383	2,900	3,122
後期(85歳以上)	374	534	715	913	1,085	1,372

国勢調査

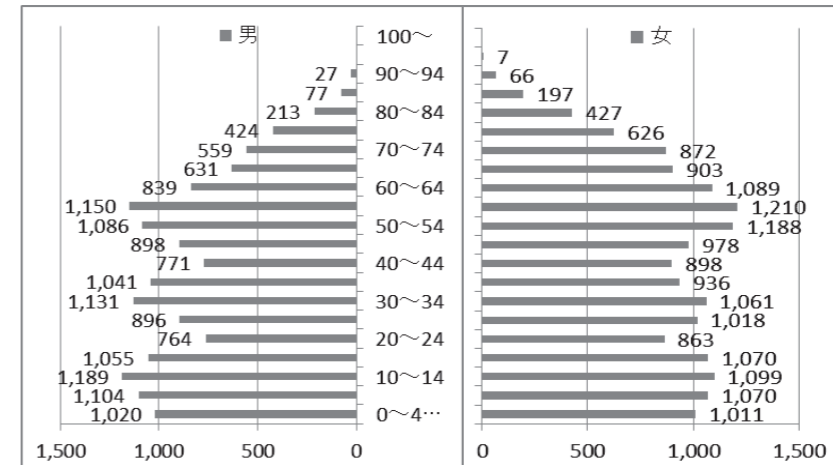


前期及び後期高齢者人口割合の推移

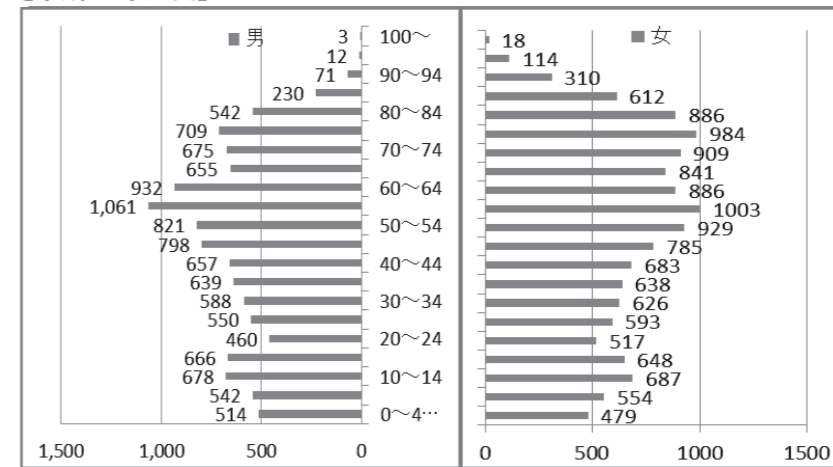


昭和60年と平成22年の人口を、年齢(5歳階級)別構成図「人口ピラミッド」にすると、昭和60年は釣鐘型ですが、平成22年は裾が細い壺型になっています。

【昭和60年人口】



【平成22年人口】



2. 世帯状況の推移

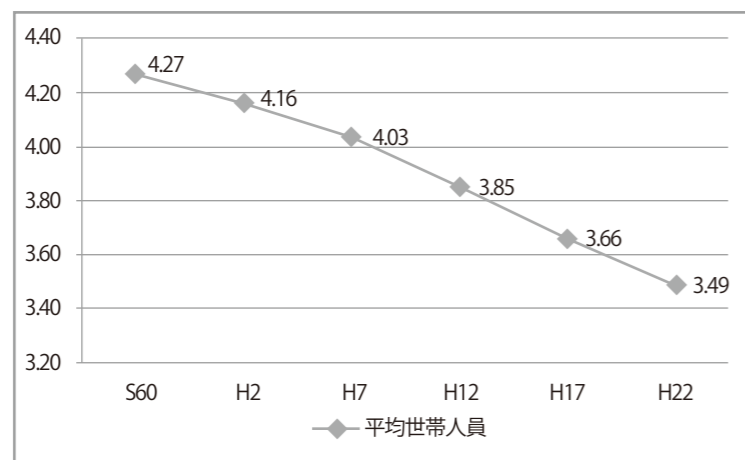
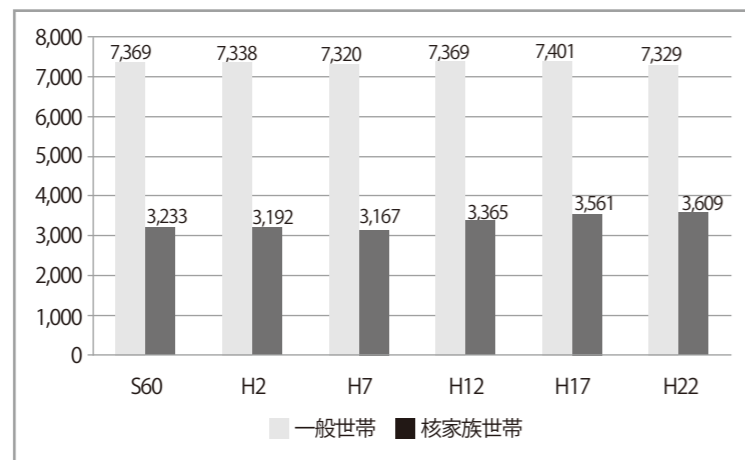
世帯数は、人口が25年間で6,000人近く減少したのに関らず、この間横ばいでほぼ変わりません。一方、平均世帯人員は年々減少し、核家族化が進行しています。核家族世帯数は平成22年に3,609世帯。一般世帯のうち約50%です。25年前と比較して376世帯多くなっています。

世帯数の推移 (世帯)

年	S60	H2	H7	H12	H17	H22
一般世帯	7,369	7,338	7,320	7,369	7,401	7,329
核家族世帯	3,233	3,192	3,167	3,365	3,561	3,609
夫婦のみの世帯	803	909	1,031	1,105	1,189	1,218
夫婦と子供から成る世帯	2,052	1,875	1,728	1,750	1,760	1,715
男親と子供から成る世帯	58	60	65	85	99	96
女親と子供から成る世帯	320	348	343	425	513	580
核家族世帯の割合 (%)	43.87	43.50	43.27	45.66	48.12	49.24

注: 一般世帯とは、総世帯から施設等の世帯(入院・入所者、寮学生等)を除いた世帯

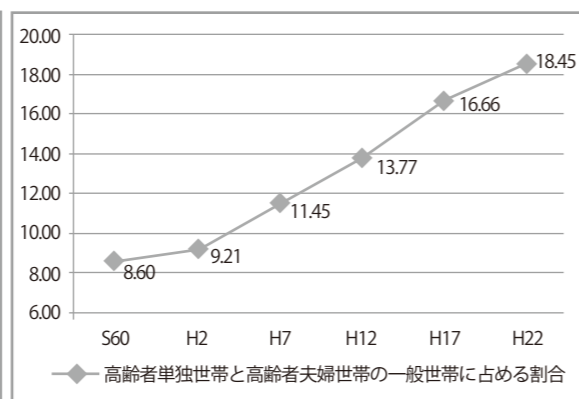
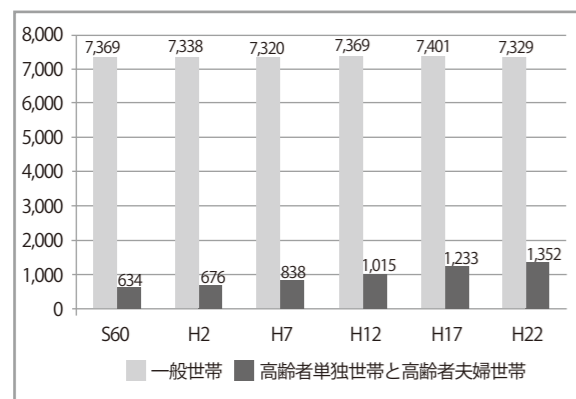
国勢調査



特に、高齢者単独世帯いわゆる独り暮らし老人と高齢者夫婦世帯の数は、ともに25年間で倍増しています。この増加傾向は今後も続く見込みで、これによっても平均世帯人員はさらに減少するでしょう。

年	S60	H2	H7	H12	H17	H22
一般世帯	7,369	7,338	7,320	7,369	7,401	7,329
高齢者単独世帯と高齢者夫婦世帯	634	676	838	1,015	1,233	1,352
高齢者単独世帯	269	342	411	512	545	594
高齢者夫婦世帯	365	334	427	503	688	758

国勢調査

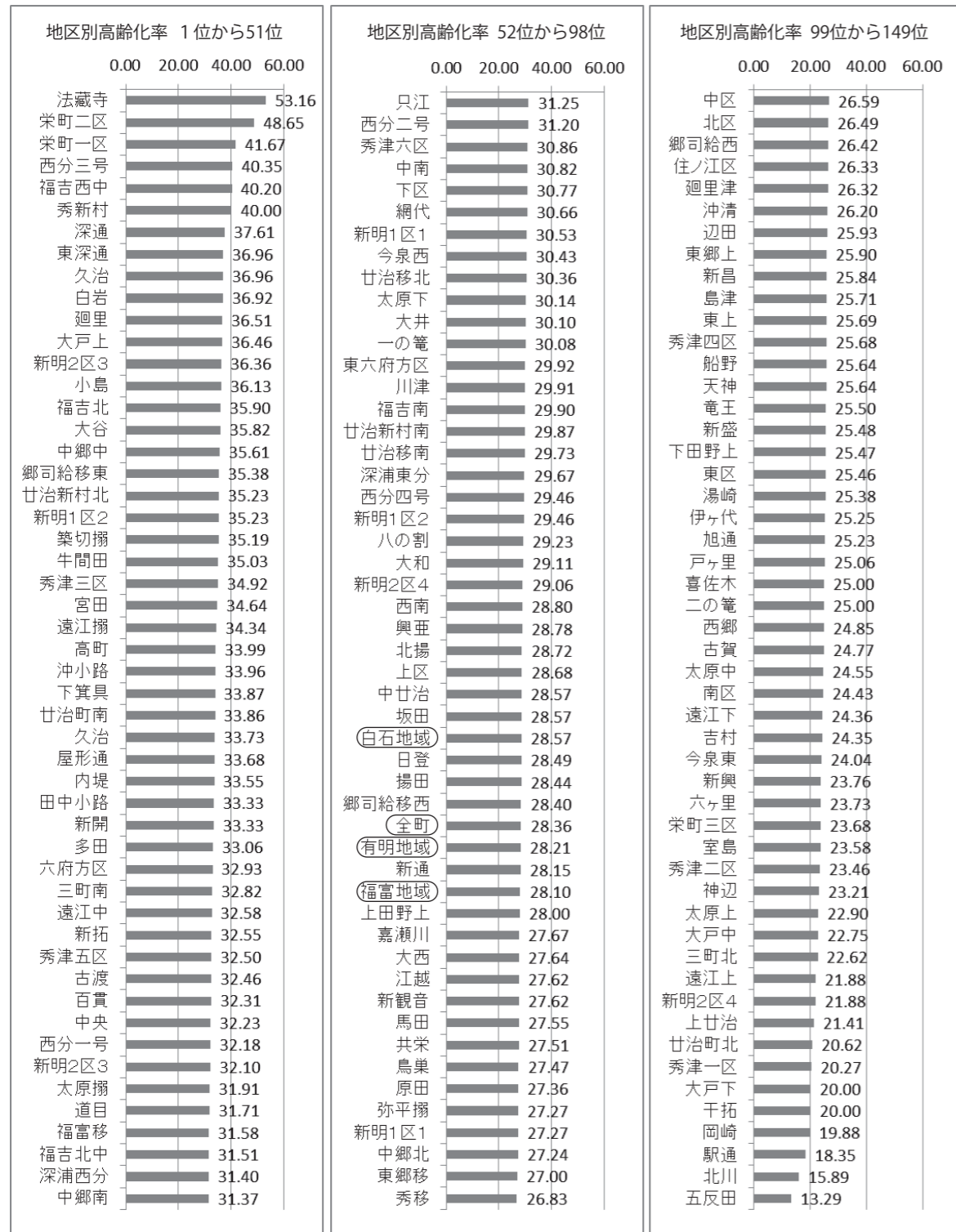


3. 地区別の人口、世帯数、高齢化率

(住民基本台帳 平成 24 年 4 月 1 日現在)

No.	地区	全年齢人口				65歳以上人口					
		世帯数	男	女	合計	世帯数	男	女	合計	高齢者がいる世帯の割合	高齢化率
1	福吉南	33	51	46	97	21	11	18	29	63.64%	29.90%
2	福吉北中	23	32	41	73	15	10	13	23	65.22%	31.51%
3	福吉北	21	36	42	78	17	10	18	28	80.95%	35.90%
4	福吉西中	30	45	57	102	28	16	25	41	93.33%	40.20%
5	東深通	14	22	24	46	12	7	10	17	85.71%	36.96%
6	深通	39	51	66	117	27	18	26	44	69.23%	37.61%
7	五反田	57	75	68	143	14	7	12	19	24.56%	13.29%
8	秀新村	27	30	50	80	24	10	22	32	88.89%	40.00%
9	揚田	35	55	54	109	18	12	19	31	51.43%	28.44%
10	屋形通	43	42	53	95	25	11	21	32	58.14%	33.68%
11	北川	106	172	193	365	40	21	37	58	37.74%	15.89%
12	栄町一区	7	12	12	24	6	4	6	10	85.71%	41.67%
13	栄町二区	15	17	20	37	12	9	9	18	80.00%	48.65%
14	栄町三区	11	15	23	38	8	1	8	9	72.73%	23.68%
15	駅通	53	67	91	158	23	10	19	29	43.40%	18.35%
16	郷司給西	17	24	29	53	9	5	9	14	52.94%	26.42%
17	郷司給移東	21	30	35	65	16	9	14	23	76.19%	35.38%
18	郷司給移西	26	35	46	81	18	7	16	23	69.23%	28.40%
19	秀移	24	40	42	82	15	9	13	22	62.50%	26.83%
20	廿治移北	17	25	31	56	11	8	9	17	64.71%	30.36%
21	廿治移南	18	40	34	74	12	10	12	22	66.67%	29.73%
22	福富移	21	33	43	76	16	10	14	24	76.19%	31.58%
23	秀津一区	29	36	38	74	12	5	10	15	41.38%	20.27%
24	秀津二区	29	36	45	81	14	7	12	19	48.28%	23.46%
25	秀津三区	17	28	35	63	14	10	12	22	82.35%	34.92%
26	秀津四区	18	32	42	74	12	8	11	19	66.67%	25.68%
27	秀津五区	15	16	24	40	8	4	9	13	53.33%	32.50%
28	秀津六区	23	36	45	81	16	9	16	25	69.57%	30.86%
29	上廿治	106	151	176	327	44	32	38	70	41.51%	21.41%
30	廿治町南	46	58	69	127	28	18	25	43	60.87%	33.86%
31	廿治町北	32	49	48	97	13	9	11	20	40.63%	20.62%
32	中廿治	67	86	103	189	33	21	33	54	49.25%	28.57%
33	廿治新村北	23	42	46	88	18	14	17	31	78.26%	35.23%
34	廿治新村南	23	35	42	77	17	8	15	23	73.91%	29.87%
35	大戸上	80	91	90	181	51	27	39	66	63.75%	36.46%
36	大戸中	79	110	123	233	34	21	32	53	43.04%	22.75%
37	大戸下	47	66	74	140	21	8	20	28	44.68%	20.00%
38	東郷上	88	121	130	251	52	24	41	65	59.09%	25.90%
39	東郷移	25	48	52	100	19	11	16	27	76.00%	27.00%
40	中郷南	38	43	59	102	24	12	20	32	63.16%	31.37%
41	中郷中	49	58	74	132	33	17	30	47	67.35%	35.61%
42	中郷北	111	143	169	312	57	33	52	85	51.35%	27.24%
43	西郷	43	84	81	165	28	15	26	41	65.12%	24.85%
44	今泉東	28	51	53	104	21	11	14	25	75.00%	24.04%
45	今泉西	36	51	64	115	24	9	26	35	66.67%	30.43%
46	伊ヶ代	25	40	59	99	19	6	19	25	76.00%	25.25%
47	網代	48	54	83	137	32	16	26	42	66.67%	30.66%
48	多田	34	62	62	124	27	20	21	41	79.41%	33.06%

No.	行政区	全年齢人口				65歳以上人口					
		世帯数	男	女	合計	世帯数	男	女	合計	高齢者がいる世帯の割合	高齢化率
145	深浦西分	44	83	89	172	39	20	34	54	88.64%	31.40%
146	百貫	60	96	99	195	42	26	37	63	70.00%	32.31%
147	古渡	38	52	62	114	27	11	26	37	71.05%	32.46%
148	大谷	22	32	35	67	17	11	13	24	77.27%	35.82%
149	牛間田	61	91	106	197	47	30	39	69	77.05%	35.03%
有明地域計		2,351	3,729	4,286	8,015	1,576	873	1,388	2,261	67.04%	28.21%
総合計		7,637	11,933	13,584	25,517	5,046	2,776	4,461	7,237	66.07%	28.36%



4. 地域の問題・課題、良いところ

平成24年7月末から8月末までの間、これからの地域福祉について広く町民皆様のご意見やご要望をお聞きするために、小学校区単位の8地区で住民座談会を開催しました。なお、発言していただいたことは項目ごとに整理しました。

地域の問題・課題

個人情報

- ・何をしても、情報が入って来ない。個人情報とか言われて手探り状態。地域の役職になっても十分な活動ができない。「情報はやらん、活動はしろ」何か矛盾を感じる。民生委員・区長になり手がなくなる。
- ・区長をしている。手も回らないが、個人情報と言われて誰が何処にいらっしゃるのかも分からないの出来ない。
- ・区長は、一人暮らし高齢者・自宅介護者についてまったく知らない。個人情報でダメと言わず情報をもらいたい。
- ・区民の情報が、個人情報の問題もあり入って来ません。地域毎の集会を開いて全体に行き届くようにしてほしい。社協の事業説明も含めて。
- ・何でもかんでも個人情報と言われ遮られてしまう。それで「支え合い」が出来るのか。発展性を欠いているような気がする。

伝統文化・行事

- ・少子化の時代。豆ぎおん等の伝統行事を伝承していくための小学生の子供がいない。子供がいない間、老人会が引き継いでやって行くのはどうか。
- ・地域の伝統的な行事などあったのが無くなってしまっている。伝統的に集落であったことを「もう一回やろうじゃないか!」という声掛けが大事。
- ・地域のお祭りを止めてしまった。担い手がいない。一度灯が消えてしまうと復活は難しい。僅かな灯でも残す。知っている人が途絶えると本当に終わってしまう。白石町に生まれて良かったと思える何かを作っていくかないといけない。
- ・区民対象のレクリエーション大会（小運動会的なもの）を実施しているが、やめたいという声が若干ある。
- ・地藏さんの移設問題がある。高齢になって見守りが出来なくなっており処分したらと言う話もある。

自治組織・地域の交流・支え合い

- ・何処の役員も若い人がいない。30代40代の役員がいない。商工青年部・農協青年部も取り込んでどうか。
- ・地域のことを若い人にバトンタッチしようと思うが、なかなかいない（出来ない）。昼間は仕事で忙しい。
- ・共助の面で、若い方・お嫁さんとなかなか接する機会がない。朝早く勤めに出て、夜遅く会う時がない。

- ・三夜待ち・六夜待ちも、今は外でやるので近所の人の顔を知る機会が少なくなった。(昔は家でやっていたので、嫁さん子供の顔、年寄りが居るのか居ないのかわかった。)
- ・地域の近所付き合い、今は青年団も婦人会もなくなった。ともに支え合うといっても、誰とどう連携するのか？その辺何かを見つけ出さなければいけない。(近所付き合い、昔は同じ地域でさなぼりも一律で、他所で作業が終わっていないところに加勢に行っていた。)
- ・昔は「遠くの親戚より、近くの他人」と言われていた。今は田舎でも「隣は何をする人ぞ」である。子育ても同じ「誰か声かけたら知らない振りしなさい」と言う。「支え合い」と言っても、することと言っていることが違っている。我々の責任もある。子孫に良いところを伝承できていない。相互扶助ということを大事にしなければいけない。
- ・基本理念は「相互扶助」じゃないかと思う。福祉の根本理念じゃないだろうか。「個性豊かな」と言うけれど、最近は個人情報と言われ、もう関わらない方が良くなくなってしまふ。ベッドからこのボタンを押せば両隣に連絡が行く、こういう施設設備を作れば良い。
- ・「マップ」とか言葉に踊らされている。マップを作って誰が見るのですか？持っておくのですか？
- ・支え合うこと・助け合うことはいいことですが、地域社会の中には0歳～高齢者まで思想信条が違う。その中で東ねていかなければいけない地域の関わりは、非常に難しいということを知っているべきではない。
- ・町の人口が減少している。企業誘致などして流出を防ぐ。卒業しても地元に残ってもらう。また、転入もあるかもしれない。自分の故郷だという意識づけをして、町に残ってもらう活動へは助成をしてもらう。(次世代の人たちが地元において、地元を見ながら、地元の良さを教えて文化を伝承していく。)
- ・企業誘致というのも大変だが、この白石農業に魅力ある特産物収入がなかったら地域は衰退する。玉葱もただ売らただけでなく製品化して何か売らる。
- ・地域に嫁をとりきらんと何が人もいる。農家の親が農家には嫁がせようとしな。やはり年間所得を考えるから。
- ・自分から相手を探そうとしない男性が多い。婚活も地域で手助けしてやることはできないか。
- ・農業後継者の未婚が多く、子どもが少ない。また、親子二人家族で親が高齢で入院加療中が増えている。テレビでサロン形式のお見合い番組があっただが、社協が協賛して実施してみてもどうか。人口減少・少子化問題、後継者問題等の解決にもなるのでは。
- ・生活の多様化に伴い、リーダーが育ちにくくなっている。
- ・公助と言うのは税金の投入である。我々の負担も増えることになり、限界がある。今の共助からすれば、小さな自治体で人を育てる部分にお金を使うことが望ましい。もっとももっと、地域を支える人を育てるようなお金の使い方が必要。リーダー的な人が自然発生的に生まれるような環境づくりが必要。そうすれば、自助・共助の結びつきも深くなってくる。
- ・社協のパンフレットを見て、こういうこと(事業)をやっていると知っているだろうか？情報として地域の人にどれだけ伝達されているか。逆に言うと知らない人が多い。誰が引張っていくの？公民館長？PTA？もっと人に公表して理解してもらい、縦だけでなく横の関係もとって、その人たちが動けるようにしていかないといけない。ネットワークを緻密に作って行く環境をつくる。

高齢者

- ・社会現象。農業離れ、サラリーマンは地域のことに対して時間が取れない。目を向けるところまで行かない。今は70、75歳で農作業も現役、高齢者としてのゆとりある生活が出来ない状況。子供が減って、高齢者が増えている社会現象。逆の施策、高齢者を取込む町づくりを考える。
- ・シャッター通り、シャッターに絵を描いてもシャッターが閉まっている現状は変わらない。後継者がいない。店舗を閉じざるを得ない。
- ・シャッターの下りている店舗を利用して、公共の店舗を開く。高齢者の人達が低賃金で働く場所を作る。そこで、働く人達が遊休地で作ったものを売ったり、店当番をしたり、地域行商をしたり。働くこと・働く場所は、小遣いができる。年金+αの収入。町の活性化はそういうものにチャレンジしていかないと変わっていかない。
- ・隣市の公民館活動として、高齢者が自分達で作った農産物を売って活力を得ているのを見た。(通帳に入った収益を嬉しそうに見入っている様子がほほえましく感じられた)これからは、高齢者が知恵を出して活動して欲しい。弱い老人ばかりでなく、元気な老人にも生きがいを！公的機関も高齢者の後押しをして欲しい。
- ・老人も死ぬまで健やかにと言うのなら、もっと高齢者の知恵を生かすような方策をメディアで大きく宣伝してやる。地域の公民館を開放し、講座などで上手な人を先生として引っ張り出す。もっと老人力を社会貢献の場に乘せてやる。老人の「生きがい」になる。
- ・全ての福祉活動に共通することは、参加者の移動。参加の距離が近ければ近い程良いという事でしょうか。大きい組織ではなく、小さな組織(いきいきサロン等)が数多く出来るよう実効性のあるサポートをお願いしたい。
- ・サロンも今いる人が段々減って、新たなメンバーが入って来ない
- ・65歳以上の三夜待ち(男性)六夜待ち(女性)への助成金があれば良いと思う。
- ・老人会が今年4月から無くなった。月1回の定例会を楽しみにしていた方もいる。家庭内だけの生活で満足しているのか、不安なことがあるのではないかと心配。
- ・地域の中にあつた小売店が止められたので、お年寄りが買い物に行くのに遠いスーパーまでは大変である。
- ・独り暮らしは買い物も不自由。
- ・独り暮らし高齢者、または高齢者二人だけの世帯が増えてきた。若者がいない状況でお互い気配りをしなければいけない地域社会になってきた。
- ・独居老人の訪問は月1回でよいのだろうか？
- ・独り暮らし高齢者・自宅介護者の安否確認は、誰が、声掛けの頻度(回数)、規定(目安など)があるのか。安否確認は、話題が多いので男性より女性が良いと思われる。(食事・家族・趣味など)
- ・健全な人はいいが、施設に入れないうか、入らない少し困難な人をどうしたらいいのか。独り暮らしの人の支援も常日頃から遊びに行っていたらいいが・・・。
- ・孤独死。民生委員はじめ地域の方々いろんな形でサポートされているが、現実そういうことであつているので、もっと繋がりを強固にして支え合いのネットワークを作る。郵便屋さんとか、メータ検針の方などの協力とか。
- ・介護認定を受けている方はヘルパーが訪問したりし割りと目が届く。認定を受けていない人への注意が必要。
- ・介護保険申請から認定までどれくらいかかるのか。その間の期間、買い物など認定を受けなくても対応できるのがいいのか。

- ・認知症の方をお手伝いしたくても「あの人が来たから、物が無くなった」などと疑われることになっては、せっかくの善が悪になる。もう関わらないでおこうと、全然人が寄り付かなくなってしまう。噂話は地域で広がり易く、そういうのが伝わってしまうと人間不信になって人との交流が無くなってしまう。
- ・老人だけを置き去りにして、子供たちが遠く離れて面倒をみない。自分達を守る自助が欠けている。ただ近所の人に預けっぱなしではいけない。「お世話になっています」の電話1本入れる。自助の推進をしていかなければいけない。そうすれば、自ずと共助がついてくる。
- ・制度の公助に頼りっぱなし。介護保険など制度そのものに問題がある。
- ・昭和の時代は家族同居で支えていたが、独り暮らしの高齢者が多くなった。元気であるしるしに旗を立てるなど安否確認の手立てとして何かした方が良いのでは？
- ・旗を揚げるのは「一人暮らし」を教えているようなもの。それも問題。
- ・助けてあげようと思う人は何人もいる。「助けて欲しい」をいかに外に発信するかが問題。
- ・自分の地区は独り暮らしの方が多。そのうち独り暮らしの女性で夜が怖いという人がいる。
- ・暑い時期でも年寄りはいち慢して昼間も冷房を入れない。そんな時、地域の公民館を開放して、一つのところに寄って、ただ横になるだけでも、しゃべるだけでも、テレビを見るだけでもいい。節電にもなるし、とても良いと思う。公民館の開放を実施計画の中に取り入れて、社協が冷房代を補助すると良いと思う。
- ・敬老会を公民館単位で行うようになった。自治会にバトンタッチした時のちゃんとした主旨が老人会や地域に伝わっていない。主旨が伝わらないと何で地域にしたのかも分からない。どう使っていくのか、動けない。主旨を伝えていかないと希薄になってしまう。弱さを感じる。
- ・年寄りも知っておかないといけない。勉強会など、年寄りの元気づけをしてやらないといけない。
- ・このような地域福祉の推進をされるなら、老人会に行ってこういう話をしてもらった方が良い。
- ・何でもかんでも老人会に持ってくる。老人は暇だと思っている。
- ・町の「健康教室」の地域施設が参加者に対して狭い。冷房もついていないので高齢者には夏場の運動は過酷。

観 光

- ・町おこしの活動に若い人が入って来ない。長年続けているイベントに、協力しているイベントに。今、稲佐のお火焚きに苦慮している。
- ・桜の里でのスケッチ大会は参加者が少なくなって止めているが、何かイベントを考えている。
- ・白岩の観音さんに行く途中までが農道で、その先道が無い。他所から来た人にも観光地として案内できる参道を整備できる方法があればお願いしたい。

生活環境

- ・空き家対策が必要。
- ・役場の東側水路にレジ袋に入ったゴミが大変多い。
- ・地域で外灯が少ないところ、多いところがある。電気代も多く負担しないとイケない。
- ・前は町内巡回バスがあったが、それが無くなって不便になった。(今はタクシーなので前もって予約が必要)
- ・公民館のトイレのバリアフリーはどこからか補助とかしてもらえるのか。

子 育 て

- ・子を持つだけで不安になる親も多い。虐待・不登校は親の不安が影響する原因も多い。親も一人ぼっち。そんな時、ゆめひろば(子育て支援センター)があることを周りが教えてやる。社協はもっとPRをすべき。
- ・地域において施設利用にバラつきがある。施設がある地域に偏っているのではないか。
- ・仕事も忙しいだろうけど、もう少し子供に関わって欲しいと思う。三夜待ち・六夜待ちなど、部落内でももう少し子供のことを真剣に話し合って欲しい。
- ・今は施設などが充実して、子どもやその親にとって満足できる環境が整ってきているが、親子の関係が希薄になっているのではないかと思う。
- ・子供達のイジメ問題。地域住民の人たちは何かしてやる気持ちはあるが、子供の親が抵抗がある。
- ・子育て支援も余力のある人が預かってもいいが、ちょっとケガでもすれば大きな問題になることもある。
- ・保護者は学校での行事、催し物の時は来ていただきたい。その後の話し合いになると帰られる。
- ・子供が通学する時、スクールゾーンに指定された場所で歩道がないところがある。朝は車がスピードを上げて危ない。避けたら田圃に落ちそうな状況。事故が起きてからでは遅い。交通量が少ないからと言うが、交通量より現実を見て欲しい。

障 害 者

- ・水害の危険性がある地域。障害者を避難させる時、障害者同士は障害者のことを知っているが、障害者が障害者を助けるのは大変困難。地域の方は知らないことが多い。
- ・年をとっても、障害があっても、遠く離れた施設にいるよりは家に居たい。家族のそばや地元地域で暮らす。障害を持ってる人もここから出て行かなくていいような町にしたい。共生できるようなエリアが出来たらいい。

防 災

- ・災害時の避難体制がちゃんと出来ていないか、周知されていない。小学校に避難経路の地図があるが緊急時鍵が閉まっていたらどうするのか。管理人が居ない時はどうするのか？
- ・地域の中に大きな施設がある。災害時の避難はどうするのか。一人住まいを含めて誘導はどうしたらいいのか。

- ・海岸線が近いだけに台風等襲来時はいつも慌ててしまう。緊急時の避難通報の放送のやり方を考えて欲しい。
- ・災害の時一緒に逃げましょうと一番最初に誰に連れて行ってもらうか相談して、高齢者が決めていた方が良い。
- ・要援護者の連絡網に同意されないのは見て見ぬふりをしてもいいのか。必要な人は情報を公開するべき。
- ・自主防災の組織づくりを今やっている。今後利用していくためにはどうするか。共助の問題がネックになってくる。お互いに助け合うのが困難・大変になってきている地域の現状。若い人は町外へ勤めに行く。昼間、災害が起きた時、誰が誰を助けるのか。老人が老人を助けなければいけない現状。自主防災も難しい。
- ・高齢者が高齢者を支える現状。高齢者も女性が多いので、女性の方々の力を得る方向で作らないと、作っても機能しないのではないかと。女性の方が動きやすい計画。女性の方々の力を自主防災・地域福祉活動計画に取り込むことが重要。

地域の良いところ

伝統文化・行事

- ・子供が少なくなっても、お地藏さんがある以上、豆ぎおんは受け継いでいかなければならない。小路で当番を決めてやっているが、近所づきあいが良くなった気がする。交流の場があることはいいことだと思う。
- ・豆ぎおんは地区のみんなで盛り上げて続けていきたい。子供が以前 20 名はいたが、今では小学生が 2 人だけだが続けていくように、老人会や区の皆で支援している。今は 2 人でも続けている。
- ・区に子供がいない時期がありました。その時は自治会でした。自治会から補助金を出して大人も参加している。
- ・地域に六地藏さんがあるが、10 人ばかりの子供が盛大にやっている様子。鳴らない太鼓でもたたいて回る。盛大にやっている。
- ・以前、社協から各公民館にテントをいただいて非常に良かった。子供たちの豆ぎおんも炎天下でやっていたが、日陰でつくれて良かった。これからも有効に使ってきたい。
- ・3 年ぶりに地域の祭りが復活した。子供が集まるきっかけが出来た。地域の楽しみがあるようにしたらいい。
- ・子供たちの浮立の練習を夏休みに実施してもらっている。
- ・豆ぎおんは、小学校 PTA の地区役員をリーダーとして子供達と一緒にやっている。他に子供行事として、七夕飾り、ゴミ拾い、一年生歓迎のおにぎり会等、現在も変わりなく行っている。
- ・夏祭りは全員参加。分館単位で約 30 年続いている。飾りの作業も皆です。早苗祝の旅行も実行している。
- ・秀津では、9 月初めに「ふれあいまつり」を開催している。老人も子供も老若男女多くが参加して、地域で子供を育てようという考えの一つとして若い人達がボランティアで行っている。
- ・屋形通区は、年 1 回子供から高齢者と旅行に参加して、ご近所ふれあいで地域はまとまっている。
- ・まだまだ絆が強く残っている。今なら多くのことが間に合いそうな気がする。

- ・団地が出来たことで子供が増えた。子供の声が聞こえるようになった。寄り合い仲間が出来て夏祭りが出来るようになった。
- ・牛間田は町からみても一番はずれ、塩田町との境。分校とか本校とかいろんな面で地域根性が生まれている。運動会なども 90% 近くが参加。この繋がりには部落民として誇りに思う地域根性から生まれたのではないかと思う。役をしている方に対しては、お願いしたのだから協力しようという意識が強い。
- ・家で作ったスイカを、ボランティアで近くの保育園・老人施設・障害者施設におすそ分けしている。芋ほり体験やスイカの収穫体験など、生産者と食べ手の地域ふれあいを大事にしたい。

環 境

- ・地区の公民館周辺のみならず、住民の皆様の近くの道路に色とりどりの花が植えられており、道行く人々の心を和ませてくれる。
- ・各家より一人出のカン拾い。老人クラブのカン拾い。水路の菱上げ年 2 回を行っている。
- ・家並みが続いている。

観 光

- ・桜の里でのスケッチ大会は参加者が少なくなって止めているが、何かイベントを考えている。花見のシーズンは地域外から来られる。有明海も眼下に一望できて素晴らしい。県内で景観のいいところ 3 位に入っている。展望台までは片道離合できるようになったので、その先を広くして観光 P R を行い、人を呼んで地域を活性化したい。

子 育 て

- ・あいさつが大変良い。地域の小学生が元気にあいさつをする。家でも地域でも学校でもあいさつから始まる。人と人の繋がりもあいさつから。顔を知る。地域の人同士、日頃からの声かけが大事。天気のこととか、「体の調子はどうね?」とか、ちょっとしたこと。
- ・先生方がしっかり頑張っている。自分達で自分達の学校でやっている活動の評価、学校評価をされている。
- ・ラジオ体操に子供だけでなく大人がたくさん来ているところは老人会や地域がしっかりしている印象を受ける。ラジオ体操は世代の交流の場である。中学生・保護者・老人も参加して一緒にやる。伝承していくことも必要。
- ・子供達が健やかに育っているのは、地域の皆さんのお陰。学校もなるべく通信やお便りを発信して地域の人と情報交換をしたい。
- ・核家族で子育ては一人でやってきた。その中で自分自身が病気をした時、周囲の人達に助けられた。(おかずを持って来てくれたり、子供を見てくれたり) 自分の子育ては、周囲の力によるものが大きいので、地域の支え合いは本当に必要だと思います。
- ・学校が完全週 5 日制になって、「子供達は誰が見るか」となった時、地域で見るといふことで、以前、お寺で座禅会をされていた経緯で、地域の公民館で「こども塾」をやっている。地域のおばあちゃんたちが朝ご飯を炊いてくれたり、生活体験学習に竹の子掘りやひこうき作りなどをやる。子供も年寄りも面白い。
- ・昨年 9 月に「古賀こども塾」で「敬老運動会」をした。町で行われていた敬老会が地域の公民館で開催されるようになったので、どうせするのなら楽しくした方が良くいふことで、地域のお年寄りと子ども、その親も交じって、とても楽しかった。

高 齢 者

- ・一人暮らし高齢者の買い物の手伝いをすることもある。
- ・いつも見守る意識はあると思う。お互いに頼りあっていく地域意識は必要。
- ・老人会でも独居が増えている。参加しない人出来ない人、「自分で出来ることは自分でやる」気持ちの持ち方はしっかりされている。(町から補助を貰っているが、その位でいい。会費も納めなければいけない。)
- ・「エゴマップ」は大変良い。地図をもっと充実させて作れば良い。誰に連絡するか一人ひとりの好みもあるので、連絡網を充実させ網羅すれば、お互い「支え合いマップ」になる。
- ・老人会と子どもクラブがもの作りを通して交流しているのは良い。心が豊かになるのはもの作りから。
- ・見守り隊など子供達は喜んでいる。
- ・老人会で男性は正月に東小でしめ縄作りをしている。女性部は雑巾を学校や施設・病院へ寄附している。
- ・老人会で校区の小学校と交流を続けている。
- ・佐農生の、一人暮らしへの清掃ボランティアは助かっている。続けて欲しい。

防 災

- ・火災が起きたとき、炊き出しをやってもらった。公民館は炊事場が狭く使いにくいので地域の主婦の方々に自宅で炊いて来てくれるよう頼んだら皆が快く協力してくれた。区外からの手伝いもあった。自主的にやってもらったのがとても良かった。

第3章 計画の基本方針

1. 基本理念

白石町地域福祉計画（町の計画）と白石町地域福祉活動計画（活動計画）の、2つの計画は「地域福祉の推進」という同一の目的で策定する計画であるため、国や全国社会福祉協議会は、両計画は共通の理念や施策方針のもとに一体的に策定し、相互に補完・補強し合いながら推進を図ることが望ましいとされています。

したがって、この活動計画の基本理念は、町の計画の基本理念と共通の基本理念とします。

白石町地域福祉計画（町の計画）より抜粋

白石町に暮らすすべての人が、住みなれたまちで、健康で安心して自立した暮らしを送るためには、行政だけでなく地域に住む住民のまちづくりへの積極的な参加が不可欠です。地域住民の知恵と力を結集し、行政、社協、各種団体、福祉事業者それぞれが、自らの立場でそれぞれの役割を果たし、将来を担う子どもたちを個性豊かにのびのびと育む環境を整えるとともに、手（こころ）をつなぎ、地域で支え合いながら、健やかで安心して暮らせる白石町を創り上げる必要があります。

このような観点から、白石町地域福祉計画では、基本理念を次のとおり定めます。

地域で支え合う 個性豊かな 健やかで安心のまちづくり

2. 基本目標

この活動計画では、「再生しよう！地域の対話とつながりを 発揮しよう！地域の支え合いを」をスローガンに、3つの基本目標を定めます。

基本目標1 支え合いで心豊かな地域風土づくり

基本目標2 認め合い、学び合い、個性と能力を発揮できる関係と人づくり

基本目標3 相談や利用がしやすい福祉サービスの体制づくり

3. 活動計画

3つの基本目標ごとに具体的な活動計画を定めて、総合的に推進します。

基本目標1 支え合いで心豊かな地域風土づくり

住民同士が親睦を深めるとともに、地域(区)の課題を解決・改善に向けて協働する体制づくりを推進します。

- 手順1 地区のリーダー・関係者で構成するネットワーク会議を定期的で開催し、地区の問題・情報を共有し、解決・改善に向けて協議します。
- 手順2 地区住民が集まって、座談会を年に数回開き、地区の問題・情報を共有し、解決・改善に向けて話し合うとともに、具体的な活動を設定し、協働します。
- 活動例 祭りなどの伝統行事の復活、ふれあいきいきサロンの立ち上げ、子ども見守り隊の結成、自主防災組織の結成、防犯・悪質商法対策
- 手順3 上記の取り組みをしようとする地区を「福祉活動推進地区」に指定し、町・社協・関係機関は必要に応じ支援をします。指定期間：3年間
- 手順4 社協は、年度当初の各種会合或いは上半期に実施する「住民座談会」において「福祉活動推進地区」について啓発をします。
- 手順5 地区ごとに、ふれあいきいき活動員(男女各1名程度)を配置し、地区のリーダー、民生委員とともに福祉活動を推進する人材を確保(養成)します。ふれあいきいき活動員は地区(区長)の推薦によって社協会長が委嘱します。
- 手順6 社協は、ふれあいきいき活動員対象の研修会を定期的で開催します。また、地区のリーダー(区長等)も含めた研修会・活動報告会等も開催します。

こういう一歩から始めてみませんか

【地域住民の皆さんへ】

- ① 民生委員児童委員と区長、班長、諸団体と連携して、地域で見守りが必要とされる独り暮らし高齢者等(災害時要援護者)に対し、日頃から声かけ・見守りなどのふれあいをしましょう。
- ② 地域での気がかりなことや困っている人がいたら、早期に福祉サービスの支援ができるように関係機関への情報提供をしましょう。
- ③ 各自治会(行政区)や校区等で住民同士が交流を行い、お互い顔なじみになって、あいさつを交わし、親睦を深めましょう。
- ④ 地域の公民館や社会資源を活用して、異世代の住民が交流活動やボランティア活動を実施しましょう。
- ⑤ 地域の課題の解決をするために、住民の知恵(アイデア)と力(取組み)を發揮しましょう。
- ⑥ 一人で避難が困難な方は、災害時要援護者登録を勧めましょう。

実施事業	実施主体/協力	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
福祉活動推進地区事業⑥	各地域(区) /社協・行政・民児協	ネットワーク会議 座談会 指定目標 4地区	活動実践 活動員配置			5年間で 20地区 目標
小地域福祉活動推進事業	各地域(区) /社協・行政・民児協					
住民活動講座の開催	社協/行政等					
ふれあいきいきサロン事業	各地域(区) /社協・行政・民児協	啓発広報 助成・相談支援・ 養成				
自主防災組織の結成、防災講習会の開催、防犯・悪質商法対策講習会の開催	各地域(区)・学校等 /社協・行政・民児協	啓発広報				
災害ボランティアセンターの体制整備	社協/行政・町ボランティア連絡協議会	調査・研究、先進地視察	体制整備 着手			

基本目標2 認め合い、学び合い、個性と能力を発揮できる関係と人づくり

お互いの存在を認め合い、そして学び合う関係の中で、一人一人が個性と能力を発揮することで結びつきを大切にしたい相互扶助や住民活動の活性化を図ります。人情と文化あふれる地域コミュニティづくりを目指していきます。

手順1 地域の暮らしや支え合い、ボランティア活動のあり方、保健医療・福祉・介護等について学ぶ講座を開催します。

講座例 ご近所福祉・支え合い活動に関する講座、認知症の理解と地域支援に関する講座、終末期医療（ホスピス）に関する講座、介護予防、子育て支援等のためのレクリエーションボランティア養成講座、健康まーじゃん教室 他

手順2 地域住民やボランティアグループ等が主催する勉強会、研修会、講座等で、広く参加者を募る場合は経費の一部を補助します。

手順3 学校・地域・団体が取り組む、福祉やボランティア活動の学習会や講演会、福祉施設等での交流・体験学習に対し、必要な人材の登録及び幹旋、機材の貸し出し及び調達、活動経費の一部補助を行います。→ふくしの学び共同体事業（福祉学習支援事業）

手順4 特に人材については、手順1のとおり養成をするとともに、町民の中で知識・技術・経験を有する方にその能力を発揮していただくよう働きかけます。

活動・事業	実施主体／協力	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
保健医療・福祉・介護等に関する講座	社協／行政・医療・保健・介護関係機関					→
住民活動・ボランティア活動講座	社協・各地域(区)／行政・町ボランティア連絡協議会					→
ふくしの学びの共同体事業（福祉学習支援事業）	社協・各地域(区)・学校等／行政・町ボランティア連絡協議会	講師登録・派遣幹旋備品整備				→
社会福祉大会・研修会の開催	社協・各地域(区)・学校等／行政・医療・保健・介護関係機関・町ボランティア連絡協議会	活動事例の発表				→

こういう一歩から始めてみませんか

【地域住民の皆さんへ】

- ① 地域の住民活動やボランティア活動に参加して、仲間づくりや生きがいづくりをしましょう。
- ② 特技、資格、趣味、仕事経験、知識を活かして地域貢献に一役買っていきましょう。

基本目標3 相談や利用がしやすい福祉サービスの体制づくり

住民の自立生活を支援するため、福祉サービスを積極的に利用できる体制づくりに取り組みます。

手順1 町の保健福祉課、長寿社会課、地域包括支援センター、障害者相談支援センター、社会福祉協議会、民生委員児童委員等との連携で福祉サービスの利用ができるだけスムーズにいくように努めるとともに、問題解決につながる相談援助体制の充実を図ります。

手順2 障がい者や高齢者、子育て家庭などの地域の要援護者の自立支援として、同じ悩みを抱える当事者同士での相談・交流活動等の支援に取り組み、要援護者やその家族等の社会参加を促進します。

手順3 高齢者・認知症となっても出来る限り住み慣れた地域で、住み続けることができるように、地域住民の理解と支援を得るための啓発活動やネットワークを取り組みます。

活動・事業	実施主体／協力	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
町地域包括支援センターとの連携	行政・医療・保健・介護関係機関	連絡会議の発足	連絡会議の定期開催			→
町医療・介護等関係者連絡会への参加	行政・医療・介護関係機関	会議・研修への地域課題提案				→
町障害者相談支援センター	行政・身体障害者会・手をつなぐ育成会・NPO法人障害者生活支援センター	連絡会議の発足	連絡会議の定期開催			→
社協だより「はあと」・パンフレットの発行、ホームページの更新	社協	事業・研修・講座等の広報				→
町広報紙・報道機関への情報提供、ケーブルテレビの活用	社協／行政・報道機関他	連絡調整				→

こういう一歩から始めてみませんか

【地域住民の皆さんへ】

- ① 地域で安心して生活ができるように、気軽に役場や社会福祉協議会、各相談支援センターに相談しましょう。
- ② 同じ悩みを持つ者同士が話し合い、一緒に活動する場に参加して問題解決を図っていきましょう。
- ③ 近所で悩みを抱えている方がいたら、相談先を紹介しましょう。
- ④ 近所で気がかりなことがあれば、関係機関へ情報をつなぎましょう。

白石町の主な福祉サービス及び 相談事業一覧（介護保険サービス以外）

サービス事業名 (実施主体/運営主体)	内 容
地域子育て支援センターゆめてらす 地域子育て支援拠点事業（ひろば型） 一時預かり事業 子育て相互支援事業 (町保健福祉課/社協)	子どもの健やかな育ちのために、遊びと交流の場を提供するとともに、専任保育士による一時預かりをします。また、町民有志の協力会員による預かり、食事の世話や家事の支援、保育施設等への送迎もします。
地域包括支援センター(町長寿社会課)	高齢者本人や家族からの相談に対応し、介護、福祉、医療、虐待防止など総合的に支援します。
障がい者総合相談支援センター (白石町・江北町障がい福祉担当/ たちばな学園)	障害者本人や家族からの相談に対応し、地域での自立した生活ができるよう総合的に支援します。
生きがい活動支援通所事業 「生きがいデイサービス」 (町長寿社会課/社協)	家に閉じこもりがちな高齢者に対して、日常動作訓練、趣味活動、生きがい活動等の各種サービスを提供し、社会的孤立感の解消と心身機能の維持向上等を図ります。
軽度生活援助事業 (町長寿社会課/社協)	独り暮らし高齢者で介護保険非該当の方へ家事援助サービスを提供します。
移送サービス事業(社協)	移動が困難な高齢者に対し、福祉車両を使って、通院等の送迎サービスを行います。
福祉用具貸出し事業(社協)	在宅の高齢者及び重度心身障害者等で、現に介護保険等の給付対象でない方に対し、日常生活の自立を促す福祉用具を貸し出します。
心配ごと相談事業(社協)	気軽に相談できる場を開設し、生活上の不安の解消を図ります。
無料 法律相談・相続遺言相談	弁護士等の専門家による早期解決への支援をします。

白石町地域福祉活動計画策定の経過

策定委員会・研修会・座談会等の開催

期 日	会議等	会 場	内 容
H24.6/28	第1回策定委員会	白石町交流館	委員の委嘱、委員長・副委員長の互選、策定趣旨・策定項目・策定スケジュール
H24.7/11	ご近所福祉ネットワーク 支え合いづくり 研修会	坂田公民館	みんなの「出来る」を出し合って！創ろう！ 本物の「支え合い」・住民歴書とエゴマップづくり 講 師：ご近所福祉クリエイター 酒井保氏、 参加者：坂田若返りの会会員12名、区長、 策定委員(町課長)2名、地域包括職員、 町内居宅介護支援事業所従事者5名、 武雄市社協職員2名、本会職員4名、計27名
H24.7/12	ご近所福祉ネットワーク 支え合いづくり 研修会	三町公民館	内容講師上記のとおり、参加者：三町コスモス会 会員19名、区長、自治公民館長、 町地域包括職員、町内居宅介護支援事業所従事者 7名、本会役職員5名、計34名
	ご近所福祉ネットワーク 支え合いづくり 研修会	中区 大弘寺	内容講師上記のとおり、 参加者：いきいきサロンだいてこうじ会員・スタッ フ34名、区長、民生児童委員、 自治公民館長、策定委員、町地域包括職員、 ボラ連会員、町内居宅介護支援事業所従事者7名、 江北町社協職員2名、 本会役職員5名、計54名
H24.7/24	先進地研修	白石町交流館	太良町社協 地域福祉活動計画の内容、 策定のための体制とプロセス、 計画の実施状況と新たな方向性 講師：太良町社協事務局長 新貝雄二様、 同社協福祉活動専門員 中村秀貴様
H24.7/30	白石小学校区 地域福祉 住民座談会	白石町 総合 センター	白石町地域福祉活動計画(策定)の趣旨・方向性 について、 計画策定のスケジュールと体制(策定委員会の設 置)について、 地域福祉活動計画策定にあたって(白石町地域福 祉計画平成23年3月策定より)、 白石町社会福祉協議会事業の現状について、 「皆様のご意見やご要望をお聞かせください」 ①地域(校区)の問題点や課題 ②地域(校区)の良いところ 参加者：住民16名、策定委員2名、 事務局5名 計23名
H24.8/2	六角小学校区 地域福祉住民座談会	白石町総合 センター	参加者：住民13名、策定委員1名、 事務局5名 計19名
H24.8/6	須古小学校区 地域福祉住民座談会	三近堂 コミュニテイ センター	参加者：住民34名、事務局4名 計38名
H24.8/9	北明小学校区 地域福祉住民座談会	白石町総合 センター	参加者：住民17名、策定委員3名、 事務局5名 計25名
H24.8/20	サロン連絡会	白石町交流館	地域福祉に関する意見交換 出席者：17名

期 日	会 議 等	会 場	内 容
H24.8/20	福富小学校区 地域福祉 住民座談会	福富 ゆうあい館	参加者：住民 20 名、策定委員 3 名、事務局 5 名 計 28 名
H24.8/23	有明東小学校区 地域福祉 住民座談会	有明公民館	参加者：住民 15 名、策定委員 2 名、事務局 7 名 計 24 名
H24.8/27	有明西小学校区 地域福祉 住民座談会	有明公民館	参加者：住民 24 名、策定委員 1 名、事務局 7 名 計 32 名
H24.8/29	第 2 回策定委員会	白石町交流館	地域の問題点や課題について(住民座談会の報告)、 関係機関・団体との懇談会の開催について、先進 地研修について
H24.8/30	有明南小学校区 地域福祉 住民座談会	有明公民館	参加者：住民 17 名、策定委員 3 名、事務局 9 名 計 29 名
H24.10/3	先進地視察研修	熊本県大津町社協	地域福祉計画・地域福祉活動計画 17 名参加
H24.10/23	第 3 回策定委員会	白石町交流館	地域の問題点や課題について、 関係機関・団体との懇談会の開催について、 先進地研修について
H24.11/2	助けられ上手研修会 (白石町ボランティア 連絡協議会と共催)	福富 ゆうあい館	講義「これなら出来る！ホンモノの支え合いづく り“5つのポイント”」 講師：ご近所福祉クリエーター 酒井 保氏 参加者：55 名
	白石町医療・介護等 関係者連絡会研修会 (本会后援)	福富 ゆうあい館	講義「大往生したけりや医者とかかわれ！～白石 町の“地域包括ケア”を考える～」 講師：ご近所福祉クリエーター 酒井 保氏 参加者：140 名
H24.11/6	白石町議会文教厚生常任 委員会との懇談会	白石町議会 事務局	地域福祉に関する意見交換
H24.11/15	白石町民生児童委員 協議会役員会との 懇談会	白石町役場	地域福祉に関する意見交換
H24.11/22	鳥栖地区 介護予防講演会	みやき町 コミュニティー センター 「こすもす館」	「～地域再生～やる気を起こせば、必ず奇跡は起 こる!!」 講師：鹿児島県鹿屋市柳谷公民館長(やねだん代 表) 豊重哲郎氏 本会から 13 名参加
H24.12/1	第 7 回白石町 社会福祉大会 記念講演	ふれあい郷 自 有 館	「地域福祉—足元からのご近所支え合い—」 講師：ひとちいき計画ネットワーク 代表 佐伯謙介氏
H24.12/25	第 4 回策定委員会	白石町交流館	地域の問題点や課題の整理から絞り込んだ検討項 目、 検討項目ごとの活動計画(目標設定、解決・改善・ 維持のための方策)について
H25. 3/4	第 5 回策定委員会	白石町交流館	基本理念、基本目標、活動計画(案)について
H25. 3/19	第 6 回策定委員会	白石町交流館	白石町地域福祉活動計画(案)について

白石町地域福祉活動計画策定委員会委員名簿

No.	区 分	所 属	役 職	氏 名	担 当
1	住民自治	白石町駐在員会	会 長	川崎 吉幸	委員長
2	地域福祉活動	白石町民生児童委員協議会	副 会 長	久島スミ子	副委員長
3	〃	白石町社会福祉協議会	理 事	平川 義雄	
4	ボランティア	白石町ボランティア連絡協議会	会 長	川崎企久江	
5	障害福祉	白石町身体障害者連合会	会 長	前田清次郎	
6	〃	NPO障害者生活支援センター蓮の実	理 事 長	下田 幸子	
7	老人福祉	白石町老人クラブ連合会	会 長	片淵 朝次	
8	地域活動	白石町地域婦人連絡協議会	理 事	井崎 文子	
9	議 会	白石町議会	文教厚生常任委員	西山 清則	
10	教育関係	白石町教育委員会	教育委員	酒井 恭子	
11	NPO 関係	NPOさが西部市民活動サポートセンター	理 事 長	中溝 安志	
12	商工業関係	白石町商工会	女性部委員	山崎千恵子	
13	関係行政機関	白石町保健福祉課	課 長	鶴崎 俊昭	
14	〃	白石町長寿社会課(地域包括支援センター)	課 長	片淵 敏久	
15	指導的機関	佐賀県社会福祉協議会	まちづくり課 査	野添 大介	

1	白石町社会福祉協議会	会 長	川崎 初	
2	白石町社会福祉協議会	副 会 長	川崎 敏光	

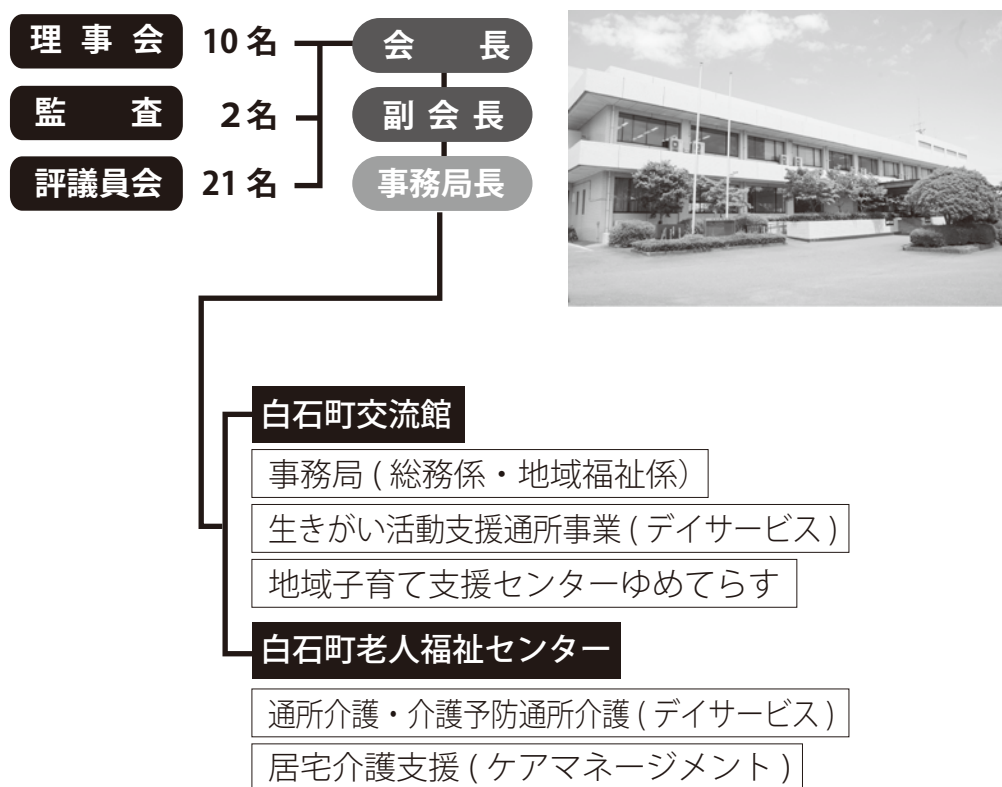
事務局

1	白石町社会福祉協議会	事務局長	上野 達馬	
2	白石町社会福祉協議会	事務局長補佐	原崎 正博	
3	白石町社会福祉協議会	地域福祉係	田中 晴美	
4	白石町社会福祉協議会	地域福祉係	重富 順子	
5	白石町社会福祉協議会	地域福祉係	伊東 哲也	
6	白石町社会福祉協議会	総 務 係	久原 幸子	
7	白石町社会福祉協議会	総 務 係	西村ちあき	

白石町社会福祉協議会は 町民皆様の参加と協力を得て 福祉のまちづくりを進めています。

社会福祉協議会は、社会福祉法(昭和26年制定)で地域福祉の推進を図ることを目的とする団体として位置付けられており、地域の住民やボランティア、福祉・保健医療・教育等の関係者及び行政機関の参加・協力を得て福祉のまちづくりを進めています。

本会の組織は、理事(執行機関)、監事(監査機関)、評議員(議決機関)及び事務局職員、事業職員で構成しています。



【発行・編集】

社会福祉法人 白石町社会福祉協議会

●事務局・生きがいデイサービス・地域子育て支援センター

〒849-1204 佐賀県杵島郡白石町大字坂田 253 番地 1

(白石町交流館内) ※旧有明町役場

TEL 0954-65-8960 FAX 0954-65-3226

E-mail yoka-hearts@spice.ocn.ne.jp

ホームページアドレス <http://yoka-hearts.jimdo.com>

●通所介護(デイサービス)居宅介護支援(ケアマネジメント)

〒849-1204 佐賀県杵島郡白石町大字坂田 275 番地 1

(白石町老人福祉センター内) ※有明公民館隣

TEL 0954-65-4386 FAX 0954-65-2103

E-mail ariake2751@ybb.ne.jp